



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (JSO)

No.129

第13回全国評議会が終了しました

第13回AA日本評議会にて頂いたもの 東北前期評議員 佐藤

こんにちは、アルコール依存症の佐藤です。アノニマスネームは「かめ」といいます。宜しくお願いします。

自分は平成20年2月9日から11日にかけて開催されました「第13回AA日本評議会」に東北地域の前期評議員として参加させて頂きました。その後の東北地域集会での報告会を終え、ひとまず「ホッ」としていた時に今回のニューズレターへの寄稿の依頼を頂きました。自分は文章作成が大の苦手です。(かといって得意なものもあまりありませんが・・・)そんなことから一瞬躊躇しましたが評議会にて頂いた自分の経験を多くの方に伝えるという点ではまたとない機会と思ひ引き受けさせて頂きました。でも先程申し上げたように自分は文章作成が大の苦手です。だからミーティング風の文章にさせて頂きます。

改めてこんにちは、アルコール依存症のかめです。今、申し上げたように自分は今のところは何とか自分自身で自分が「アルコール依存症」であると認めることができています。「今のところは何とか」と言うのを変な言い方と感ずる方もいるでしょうが自分は若い時に一度AAプログラムを頂いてからAAから離れ暫く時間が経ってからスリップし再度AAに通うようになった、いわゆる「出戻りタイプ」なのです。だから今のところも認めることが出来ていることに感謝なのです。でもスリップして認めることが出来なくなっていた時は辛い期間でした。この辛い期間について語り始めたらいくら時間があっても足りなくなるので省略しますが一回目のAAに通っていた頃に頂いていた先行く仲間の辛い経験談を自分自身で実証していく本当に辛い期間でした。

何とか二回目のAAに戻れたときに何故スリップしたのかを自分なりに足りない頭で考えてみました。先行く仲間に聞いてみたりAAの文献も色々調べたりもしてみました。結果として自分には「メッセージ活動とサービス活動」が不足していたことに気付きました。それからです、多くの愛する仲間をサポートをして頂きながら自分なりに可能な範囲で色々な「メッセージ活動とサー

ビス活動」を行って来ました。そして今に至るわけです。

前置きが長くなりました。「第13回AA日本評議会」の話に戻ります。実をいうと自分は過去に何回かオブザーバーや事務局として評議会に参加していた経験があり今回が初めてというわけではありません。しかし何回参加してもその度に新たな感動を頂くことが出来ます。

初めて参加した時に頂いた感動をひとつあげさせて頂きます。自分はアルコール依存症です。かつては誰からも相手にされず自分自身でさえも持て余していた人間です。多分評議会に参加している仲間達も多かれ少なかれ同じような経験を過ごしてきた人達なのだと思います。そんな経験の集合体があのような「慈愛」と「良心」に満ち溢れた時間を作り上げるのです。これを感動といわずして何が感動でしょうか? 「慈愛」とか「良心」という言葉を簡単に使うなどお叱りをうけるかもしれません。しかし受付から解散のときまで二泊三日の長期間において仲間一人一人がルールを守り協力し助け合って運営していく評議会の持つオーラに触れたときにボキャブラリー不足の自分にはそんな言葉しか思いつきませんでした。

ただ以前の評議会では参加者が一生懸命になるあまりに口調が激しくなったり熱く語りすぎたりするものですからタイムスケジュールどおりに進行しないなんていうことはあたりまえの状態でした。例えば夜の23時頃に会議を開催するなんてこともありました。

しかし今回参加して頂いた新たな感動をひとつあげるならその進行がスムーズになったことです。以前は先程述べたように熱くなるあまり時間を度外視した進行でしたが今はタイムスケジュールどおりに進行するようになっていました。そのように協力しあう姿に生意気かもしれませんが自分を含めて「成長」を感じました。振り返れば自分も今までの「メッセージ活動とサービス活動」において熱くなるあまりに頑固に自分の意見をなんとか通そうとするところがあったことを素直に棚卸させて頂きました。このように素直になれるのも評議会という大きな一体性の中に居るからなのだと思います。

また今回は評議員として参加したわけですが評議員という役割の大切さを改めて感じさせて頂きました。

最後になりますが評議会は理事や評議員のみではなく多くの事務局スタッフやオブザーバーに支えられていると思います。今回も事務局スタッフの議事録作成等の昼

夜を問わない献身的な姿に「AAのサービスの心」を感じましたし、オブザーバーの皆さんの熱意と休憩時間の「お疲れ様〜」の声に癒され励まされました。本当にありがとうございました。すべてに感謝です。恩返しはこれからもAAの中で返していきたいと思います。

やっぱり評議会を含めてAAプログラムはサイコーです。大変な作業ですが一人でも多くの方に伝えていくことの大事さを改めて感じた三日間でした。

ありがとうございました。

上記の通り、2008年2月9日から11日までの3日間、AA日本第13回評議会が開催されました。

この評議会では、2007年度の活動報告と決算報告が承認され、グループや地区・地域から提案された議案及び2008年度の活動計画と予算案が決議されました。

経過報告と今年度の活動のポイントを、以下に述べさせていただきます。

1、経過報告に関して

2007年度の活動報告に関しましては、評議会報告書として事務局・書記のご協力をいただいて現在整理中ですので、今後印刷して5月中旬を目途に各グループ宛にお送りしますので、グループ・メンバーの皆さんに回覧等でお知らせいただきたいと思います。

経過報告では、ワールドサービスミーティング評議員の選出につきまして、昨年7月の第一回投票で3分の2に達しないことにより、第2回目の選挙告示が行われましたが立候補が無いため、第3回目の告示は行わないで扱いをどうするかを評議会に委ねられた事項については「やむなく欠員とする」扱いで承認されました。

今後、「欠員のままとするのか、または補充選挙を行うのか、行くとすれば行う時期は？」も含めて、今年の常任理事会で協議していく取り扱いとなりました。

2、今年一年間の活動計画について

今年の活動計画に関係する主な勧告は、

- ①サービスガイドの改訂について、7月頃を目途に「各グループの意見を反映させるよう」準備をすすめる。
- ②常任理事等選出選挙に関するルール等の整備を行う。
- ③「AA日本広報・病院施設フォーラム」の開催は北海道地域とする。

(時期は、11月8日(土)に札幌市で開催)

- ④矯正施設フォーラムの開催は中四国地域とする。

★AA日本35周年記念集会は2010年3月に名古屋市で開催される予定です(昨年に勧告決定済み)。

3、来年度の評議会テーマについて

今年の評議会では勧告決定された「私達は、今、苦しんでいる仲間にメッセージを届けているだろうか？」というテーマは、来年度のAA日本第14回評議会のメインテーマです。このテーマを、全グループ、地区や地域活動の大切なテーマとして、今年一年間のAA日本サービス活動として取り組むように勧告決定されました。

来年度の評議会では、今年、評議員になられた皆さん方が来年には後期評議員となり、今年一年間の地域活動として、どのような活動をしてきたかをこのテーマに基づいて報告していただきます。

内容のある評議員からの報告ができますよう、各グループからの取り組みを積極的にお願いします。

4、ビジネスミーティングでの話し合いを!

評議会事務局・担当理事としましては、第13回報告書ができていませんが、評議員の皆さんからグループや地域集会、地域委員会・地区委員会等における報告をしていただきますようお願いしております。

6月のグループへの月例情報には、来年2月の第14回評議会への議題提案等の募集のお知らせを同封させていただきます。お知らせの内容は、①報告書を読んで頂くこと、②そして日頃のAAミーティングやメッセージ活動等のなかで評議会が決定するように議案提案して頂く事、③2010年2月開催の第15回評議会のテーマを提案して頂く事、④そうした提案をすることについて、各グループのビジネスミーティングで話し合っていただきたいことなどです。

5、来年度の議題の提案、テーマの募集!

全グループの皆さんから、2009年2月開催の第14回評議会への議題の提案や2010年2月開催の第15回評議会のテーマ等を募集します。

期限は、2008年9月10日までとさせていただきますので、ぜひ、積極的にご提案ください。

提案にあたっては、①一つの提案は一枚の用紙に記入して頂く事。②一つの委員会の審議に限らせて頂く事。③提案はグループ等で話し合った結論とすること。④グループ以外は、地区委員会、地域委員会、地域集会等で話し合った結論を提案してください。

なお、AAは、グループにおける回復が基本ですから個人提案は原則としてはやめて頂きたいと思います。

各グループやメンバーの皆様からの、率直なご意見をお寄せください。私は、今年一年を、明るく、楽しく、元気よく、仲間のなかで成長していきたいと思っています。よろしく願いいたします。

B類常任理事(評議会担当) 小林

国際協力献金の時期がまいります

海の向こうにも今、苦しんでいる仲間が！

1935年6月10日、ドクターボブのソプラエティがビル W. との出会いを契機に始まりました。73年前のこの日、一人のアルコールリックがもう一人のアルコールリックに経験と力と希望を分かち合うことにより飲まないで生きる恵みの輪を広げていく AA プログラムが始まりました。

記念日である6月10日には各国でメッセージを全世界に広げていくために国際協力のための献金が呼びかけられています。日本でも例年、6月10日の前後2週間、通常の献金とは別枠で国際協力献金をみなさまにお願いしております。昨年度は593,939円、お寄せ頂きました。どうもありがとうございました。

その使い道は国際協力担当であるWSM評議員が中心となり常任理事会で決定し、評議会で報告するという形を取らせて頂いております。昨年度はWSM事務局とAOSM事務局、国際出版基金への各10万円ずつの献金、AOSMでのモンゴルに対する援助に30万円を使わせて頂きました。(前年度持ち越し分がありましたので総計額が60万円となります。)

それらは国際協力活動の中でどのように使われたのでしょうか。まずWSM(ワールドサービスミーティング)ですが、これは2年に1度西暦偶数年に開かれる世界レベルでのサービスに関する分かち合いで、ビルの発案により1969年に始まりました。前19回は2006年アイルランドで開催され、33ヶ国から69名の仲間が集いました。参加各国はそれぞれ分担金を負担しますが、その額はできるだけ多くの国からの参加を可能にするため評議員1名につき1,100米ドル以上と実際の経費約4,470ドルよりかなり低く設定されています。日本も今年度は通常献金から1名分30万円しか予算組されておりません。その不足分を補填するため、献金させて頂いております。

AOSM(アジア・オセアニアサービスミーティング)はアジア/オセアニア地域帯の分かち合いでこちらは西暦奇数年に開かれます。ご存じとは思いますが、昨年は第7回が埼玉県武蔵嵐山で開催されました。

アジア/オセアニアですが、英語圏のオーストラリア、ニュージーランドはAAの歴史は古く、メンバーも多いのですが、アジア/環太平洋は残念ながらAA後進地域です。AAがない、あっても在留外国人向けのミーティングだけ、もしくはメンバー数が極めて少ない国が大半で、今回も圏内43ヶ国中から参加があったのは日本を含め12ヶ国

に過ぎませんでした。日本はサービスに参加しようとする仲間が少ない等、いろいろと問題を抱えておりますが、幸いにもAAが盛んな数少ない国の1つです。この今日があるのもWSM、AOSMへの参加を通して矯正施設へのメッセージなど様々なことを学んできたからです。今年度は、アジア/環太平洋でAA活動が活発化するようにとの祈りを込めて、AOSMにより重点をおいて献金したいと考えております。

その昨年のAOSMの際、スポンサーシップを取っておりますモンゴルからの評議員の旅費/滞在費に15万円、そして会議が英語で行われることから英⇄蒙通訳の経費15万円を援助いたしました。もちろん経済的にも“自立”がこのプログラムの原理ですから、モンゴルと日本の物価の差、派遣される評議員を支えるメンバー数などを考慮し特例としての援助でした。また30周年への招待などモンゴルへの経済的援助を行ってきましたが、これをもって終わりと致します。

そして国際出版基金ですが、これはAAの書籍を新たな言語に翻訳していくための基金です。12のステップ/伝統/概念など飲まないで生きる霊的な道具もまずその土地の言葉に翻訳されなければ使うことはできません。日本も過去、出版に当たってはアメリカ/カナダから貸与という形で随分と援助を受けました。管理は合衆国/カナダのGSOが行っています。

献金は“金銭と霊性の交わる場所”です。日本にプログラムの希望が伝えられて今年で33年。私たちの霊性を高めるためにも、与えて頂いたものを今度は海の向こうで今も苦しんでいる仲間と与えていきましょう。

WSM 後期評議員 まさよ

北海道で広報・病院・施設

フォーラム開催

昨年(2007年)11月の地域集会で議題となり、満場一致で開催の立候補に名乗りを上げました。いつものパターンです。

いつかは来るだろうとの予測は有りました。流れを見ると開催してない地域は数少ないのです。私が評議員のとき第1回が関西で決まった経緯を知っていたので、そして関東・中四国・中部北陸・九州沖縄と続いています。フォーラムとしてそれなりの感触を得てるから続いているのだと私は判断していました。そして北海道にもきつと実り多いものになると期待して、私も一票を入れました。

その夜のうちに、私は実行委員会の参加を決意しまし

た。AA に関して地元の役割は全てやらせていただき、楽しい時間を持たせてもらった。そして飲まなくても生き方に失敗し会社を辞めざるを得なくなりましたが、何とか立ち直りのきっかけを与えてくれた AA、そして心配してくれた仲間の為にも、何かやろうと心に決めていました。

動き出したら早かったですね。12 月には第 1 回の準備委員会が開催されました。評議員経験者や現評議員、初めて実行委員会に参加する仲間等、十数名の参加でした。なぜ北海道の中心都市札幌で開催するのか、会場は何処に、役割分担、開催時期は等の熱い議題で盛り上がりました。久しぶりの実行委員会に私も喋り過ぎました。

そして、とりあえず元 A 類常任理事の田辺 Dr に相談しようと言う事になり、連絡をとり相談にのっていただきました。早かったですね、会場・開催時期・何処に重きを置くか等、適切なアドバイスをいただき 12 月の準備委員会では一年前からの予約 0k の会場を確保でき、開催時期も 10 月は関係者のイベントも多く、遅くなると雪の心配から、11 月初旬に決定しました。

本来の目的である、地方中核都市での開催とありますが、北海道は札幌中心です、経済も流通も、そして AA も札幌中心です。

近年益々一極集中が目につきます。道内全体の人口 550 万人、札幌市は 190 万人弱です。この数年人口増の町は札幌と苫小牧だけで、札幌圏の近隣の人口あわせると概ね道内全体の半分近くが札幌に集中しています。

過去に北海道ではラウンドアップでのパブリック M、単独開催でのパブリック M も数回開催されました。それなりに成果はあったと思いますが、この一極集中に歯止めをかけるまでの効果は上がっていないように思い、又この現象を打破するのは困難だと思います。

特に地方 G は仲間が増えるどころか逆に中心メンバーの高齢化による、行動範囲の脆弱化が進み、宿泊セミナー等のイベントも少なくなり広報活動にも弱さを感じられます。

北海道全体の広報を目的にするので有れば、やはり札幌です。そして今回特に重点を置くのは、医療大学・看護大学等のこれから医療現場の最前線として地域医療に関わってくださる方たちです、当然その方たちも将来的に地方の医療現場で私達に関わってくれる筈です。

私も何回か大学で話させていただいた経験があります。私がアル中本人ですと言ったら、目を輝かせて聴いてい

たのを覚えています。

当然今まで関わってくださった関係者達にもアピール出来ます。それは日本の常任理事会主催です。北海道単独では到底無理な先生達のお話や、仲間の話が聴けます。当然道内の仲間にとっても実りの多いものになる筈です。是非この機会に会場まで足を運んでいただき AA の素晴らしさ・魅力等を分かち合っただけであれば、実りあるものと思います。

最後に、今年 2 月に病気で亡くなった仲間の話をさせていただきます。彼は 71 歳の生涯を閉じました。54 歳でソーパーを得てから AA のサービスにひたすら熱心に関り、昨年の大分のフォーラムにも参加しました。悩みぬいて心臓手術を決断し、行ってくるだけだよと言って全国の仲間に来て来ました。それが遠方の仲間には最後の姿になってしまいました。

そして何時も一緒にサービスに関わってきた、私にこの委員会は参加できないと言いました。私はもう高齢だし、手術も控えてるし、そうだなと言いました。まさかその彼が手術後 2 週間で容態が急変し 2 月 5 日に帰らぬ人になるとは夢にも思いませんでした。

後で聞いた話では、手術前の朝にステップの本を読んでいたそうです。いかに不安だったか、そして AA を愛し信じていたかが窺われます。

その彼の葬儀は見事でした。最後まで音信普通だったお兄さんが喪主になり、大勢の道内の仲間・道外の仲間に見送られました。人は死んだ時にその人の値がわかると言いますが、まさしく彼は皆に愛された仲間でした。質素な仲間でしたが、手術前に私に目一杯の笑顔で、俺は貯金してるぞと言い、私にあんたは貯金できるタイプでは無い、若い (57 歳) のだから、会社勤めをしっかりし年金を払い、それで老後を過ごせと言った言葉が遺言になってしまいました。

今、私も転機です、4 月から新しい会社に就職が決まり、慣れない職場で戸惑いも、不安も有ります、しかし今までどおり AA の中で全て解決してきたのです。この方法を手放すわけには行きません。ひたすら与えられた役割を、そして仲間の中で生きていきます。

このフォーラムで一人でも多くの苦しんでる仲間 AA プログラムが伝わる事を祈り、そして多くの関係者のご参加をお待ちしています。

としお

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> aa-jso@cam.hi-ho.ne.jp

(月一金) 10:00-18:00 (土・日・祝) 休